

# 『京都府歯科医師会における行政との連携推進の試み』—地域歯科保健対策のネットワーク構築に向けて—

○中川 徹<sup>1)</sup>、山崎陽司<sup>1)</sup>、田中一也<sup>1)</sup>、宮川 淳<sup>1)</sup>、芝野 潤<sup>1)</sup>、松尾 亮<sup>1)</sup>、正本文浩<sup>1)</sup>、  
東山和樹<sup>1)</sup>、徳地正純<sup>1)</sup>、赤井綾美<sup>2)</sup>、井下英二<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>京都府歯科医師会公衆衛生・産業歯科部、<sup>2)</sup>関西ウェルビーイングクラブ、<sup>3)</sup>滋賀県大津健康福祉センター

(索引用語：ヘルスプロモーション、ネットワーク、歯科医師会)

口腔衛生会誌 56 (4), 2006

## 目的：

京都府は、政令市の京都市により中央で分断され、地域歯科保健施策を推進する為の情報の共有や連携が難しい状況にある。また、京都府・京都市には常勤歯科医師が配置されておらず、京都府歯科医師会（以下：本会）と行政の円滑な連携推進が大きな課題となっている。

そこで本会では、ヘルスプロモーションの理念に基づく地域歯科保健事業を企画・推進する目的で、地域歯科保健課題の解決に向けた、協動的かつ持続的な連携推進を目指し、ワークショップ形式による「地域歯科保健担当者一日研修会（以下：一日研修会）」を開催し、有意義な成果を得たので報告する。

## 方法：

### 1. 準備検討会の発足

研修会を開催する3ヶ月前より、本会地域保健担当常務理事・公衆衛生担当理事・委員長および大津健康福祉センター歯科医師にて、準備検討会を発足した。

### 2. テーマおよび目的の設定

準備検討会により、テーマを「我が地域の歯科保健の課題は何だ！指定されたライフステージでの課題に対する解決策」とした。目的は、1ヘルスプロモーションの理解、2住民参加の場づくりや情報共有のスキルアップ、3歯科保健課題の共有、4関連機関の連携による歯科保健対策の推進と設定した。

### 3. 実行委員会の発足

プログラム企画および実施にあたり、準備検討会メンバーに加え、本会公衆衛生部員・委員および関西ウェルビーイングクラブ理事、京都市常勤歯科衛生士、京都府嘱託歯科医師を加え、実行委員会を発足した。また、「ファシリテーター養成講習会」を実施し、目的・目標の共有および実行委員の資質向上を図った。

## 結論：

### 1. 参加者

京都府歯科医師会役員・委員・部員他、18支部から会員約70名、京都府・京都市の歯科医師、保健師、歯科衛生士、事務職など行政関係者約40名の参加があった。参加者は10グ

ループに分け、各グループにファシリテーターを配置した。

### 2. 実施プログラム

午前中のグループワークでは地域歯科保健の課題について、ブレインストーミングによる自由な提案を行い、KJ法により整理し発表した。10班のグループワークの結果出されたキーワードを抽出し、KJ法により整理した（図1）。

午後のグループワークでは、優先される課題の解決策についてアイデアを出し合い、整理し発表した。

## 考察：

今回の研修を通して、本会会員と行政の担当者が直接意見交換をしたこと、その結果について発表を通して参加者全員で共有できた意義は大きく、会場の一体感は期待以上のものがあつた。このような結果は、実行委員が「ファシリテーター養成講習会」で体験学習を実際に経験し、場づくりに重要なアイスブレイクの手法が有効であったこと、目的・目標を共有し、スタッフ間の連帯感を高めたことが成功に大きく貢献したと考える。

また、参加者の多くがグループワークの基礎を学び、各地域でも試みようという意欲が芽生え、本会と行政との連携が一歩前進したと考える。

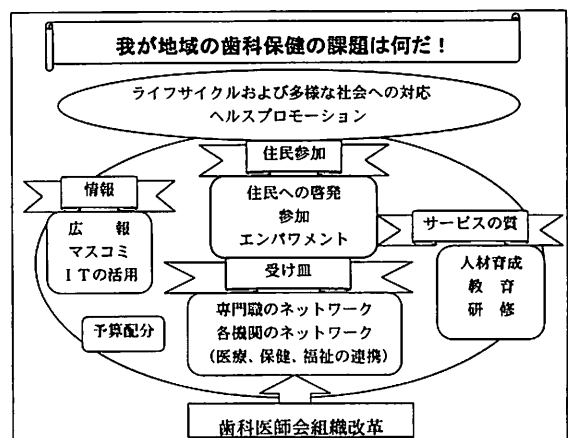


図1 地域歯科保健の共通課題